

8. 遅れている部分（2）

道路等のインフラの整備が遅れています。

一般道路（国道+県道）の道路整備率 **全国第47位**

	道路延長	整備済延長	道路整備率	全国順位
奈良県	約 2, 1 5 4 km	約 7 3 7 km	約 3 4 %	4 7 位
国道（国管理）	約 1 7 9 km	約 6 6 km	約 3 7 %	4 4 位
国道（県管理）	約 6 8 2 km	約 3 3 3 km	約 4 9 %	4 4 位
県道	約 1, 2 9 2 km	約 3 3 8 km	約 2 6 %	4 7 位
全国平均（国道+県道）	約 3, 7 5 8 km	約 2, 4 2 9 km	約 6 1 %	

9. 道路整備の加速化について①

立ち遅れた道路整備の加速化のため、計画的・効率的に事業を行います。

道路整備の加速化のための改革

改革1：土地収用制度の積極的活用

一定期間経過後は速やかに土地収用手続きに着手するなど、計画的に用地買収を行う 等

改革2：埋蔵文化財調査の加速化

調査業務の発注方法の見直しや調査体制の強化を行う 等

改革3：選択と集中による工事の加速化

用地取得や工事に協力を得られるなど、事業実施環境が整った区間へ予算の重点化を行う 等

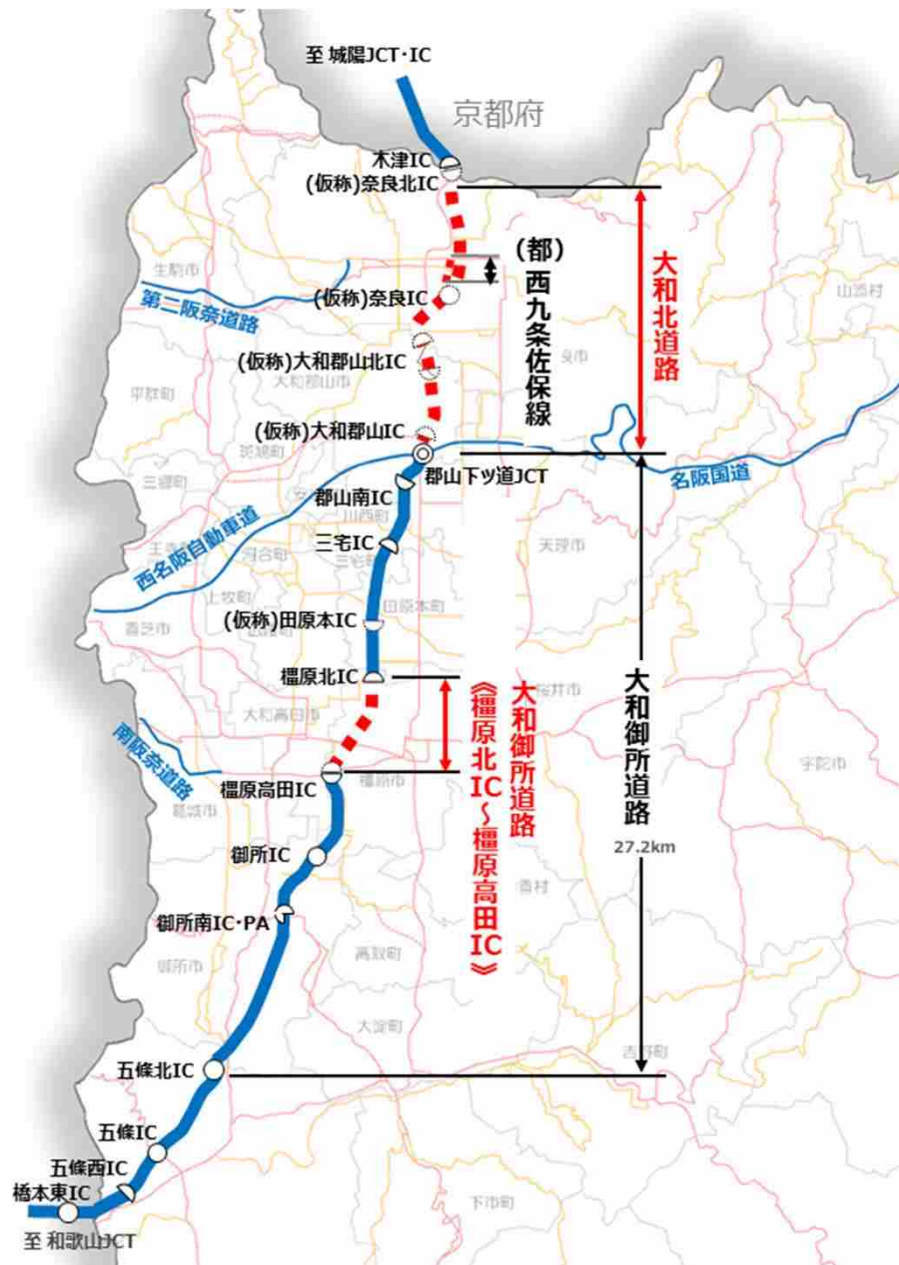


文化財発掘調査(奈良市八条地区)

9. 道路整備の加速化について②

高速道路のミッシングリンクを解消します。

京奈和自動車道の整備促進



<凡例>
■■■ 事業中
■■■ 供用済

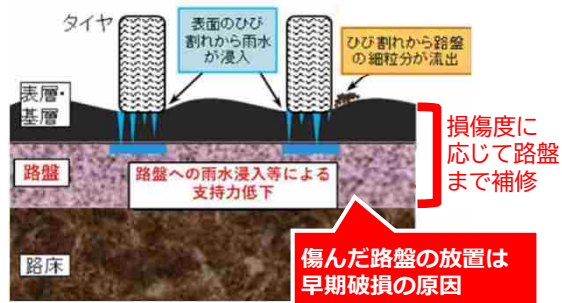
9. 道路整備の加速化について③

道路の計画的な維持管理を行うことで、快適な道路空間を道路利用者に提供できるよう、令和6～10年度において「**ならの道 リフレッシュ プロジェクト**」を実施します。

ならの道 リフレッシュ プロジェクト

① 舗装の耐久性向上

大型車交通量の多い主要道路を中心に、損傷度に応じた適切な県管理道路の**舗装修繕を実施**



▲路盤が損傷するメカニズムと補修イメージ
出典：国土交通省資料を元に奈良県編集

② 区画線の維持修繕（視認性の向上）

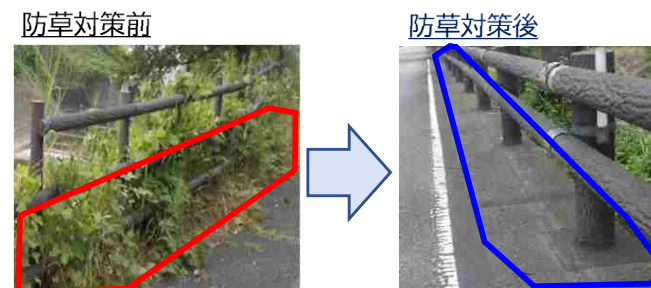
大型車交通量の多い道路を中心に、県管理道路の区画線補修を実施(パトロール発見箇所や通報箇所に加え、ドライブレコーダー画像を用いて損傷具合を確認し、**区画線補修を実施**)



▲消えかけた区画線の修繕
出典：路面表示と交通安全（全国道路標識・標示業東京都協会）

③ 草刈りのメリハリ化（不快感の軽減）

・大型車交通量の多い主要道路を中心に、県管理道路の**雑草が生えない対策**を実施
・観光地や危険箇所にも着目し、**草刈り**などを実施



▲雑草が生える隙間を無くすることで雑草のはみ出しを軽減させる

④ 道路維持管理のDX（異常箇所の早期発見）

身近なツールで写真・位置を送信可能にするなど、利用者の**通報しやすさ**を向上
また、**ドライブレコーダーのデータ**を活用するなど、**道路状況確認の効率化**を図る



電話通報



パトロール



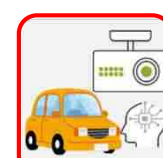
電話通報



SNSによる通報



パトロール



一般車両
+ドライブレコーダーの活用

10. 医療提供体制の充実について①

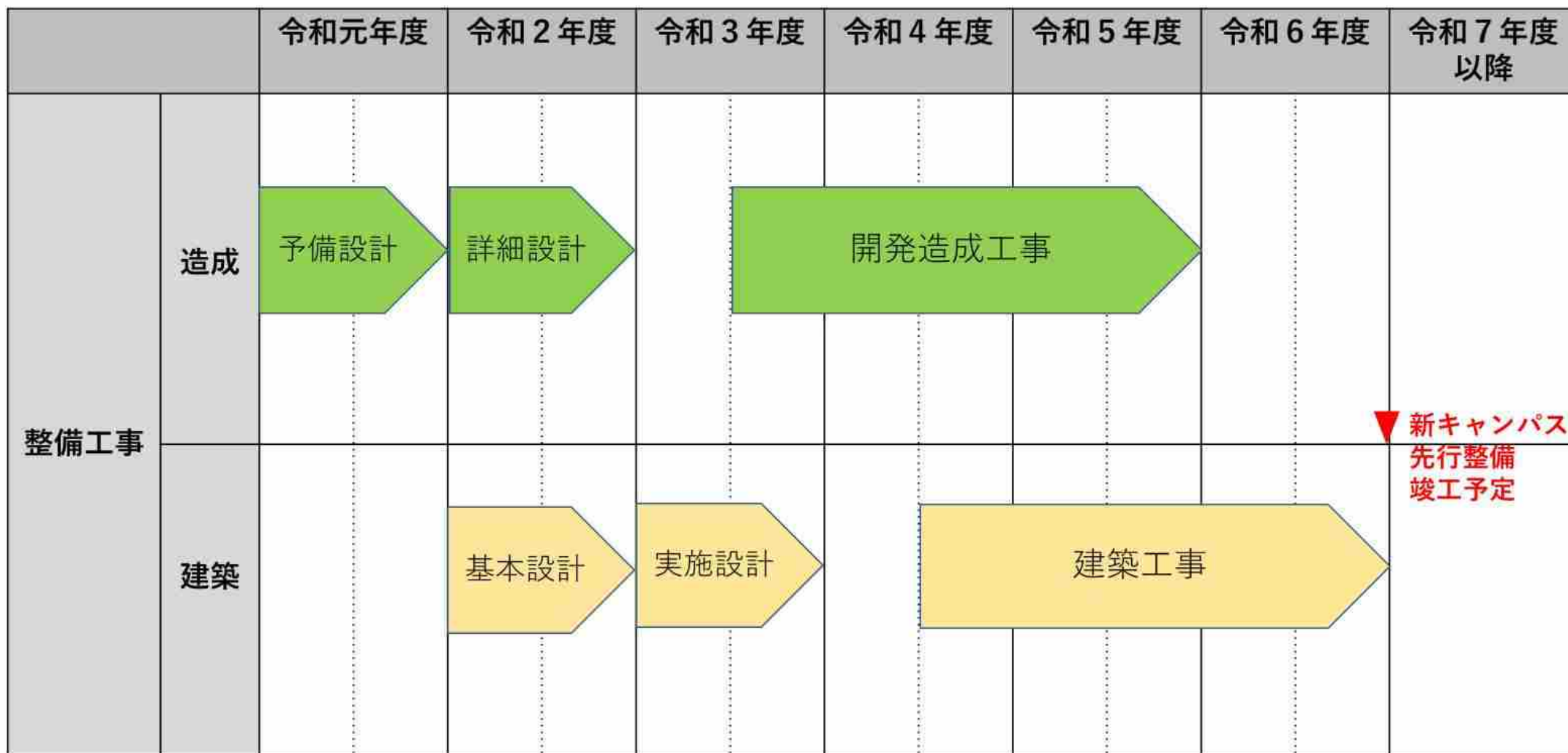
奈良県立医科大学と西和医療センターの移転整備を行い、**医療提供体制の充実**を推進します。



奈良県立医科大学新キャンパス
鳥瞰イメージ（北西側から）

10. 医療提供体制の充実について②

奈良県立医科大学 新キャンパス先行整備スケジュール



11. 「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産登録について①

令和6年9月9日に、**国内推薦候補に選定**されました。
今後、ユネスコへの推薦書提出、イコモスによる現地調査、イコモス勧告など一つ一つのプロセスを国と共に進めていきます。

・令和5年7月4日、国内推薦候補の選定が見送り。
文化庁より、クリアすべき課題が示される。

・示された課題のうち保護措置の充実については、
世界遺産として必要な史跡の指定が、飛鳥宮跡はすべて、
藤原宮跡については約98%の見込みが立った。

・また、他にも課題をクリアすべく、関係省庁・関係自治体等による連携体制の構築や、国際的な理解を得るため、海外の専門家との対話を通じた説明ぶりの精査・充実等に取り組んできた。

・1年間の取組の成果が認められ、今年度、国内推薦候補に選定されたことは、平成19年の世界遺産暫定リスト掲載以来、長年に渡り取り組みを続けてきた本協議会にとって大きな前進。



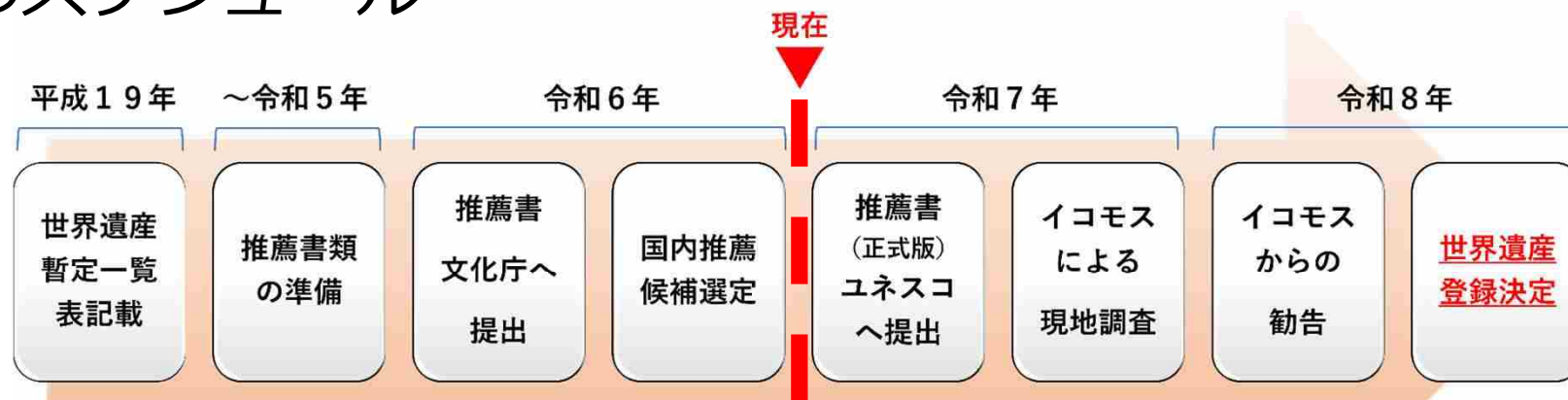
11. 「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産登録について②

「飛鳥・藤原」の概要

中国大陸及び朝鮮半島との緊密な交流のもと、日本列島においてはじめて生まれ、後代にも文化的影響を与えた古代国家の宮都の考古学的遺跡群等である。東アジアの古代国家形成期において、中央集権体制が誕生・成立した過程を、2つの連続する時代の宮都の変遷から示すことができる唯一無二の資産であり、人類にとって顕著な普遍的価値を持つ。



今後のスケジュール



12. 奈良県立民俗博物館の展示室一時休止について①

金曜 時評

大和郡山市の県立民俗博物館で、収蔵能力を越えた民具の扱いが問題となっている。館内の収蔵庫は30年以上前からパンク状態で、県立高校の跡地などを借りて保管してきた。

山下真知事などの問題に対応するため「民俗資料の収集・保存の奈良モデル」を決定し、同じような課題を抱える全国の博物館に示したいと考えた。具体的には収蔵品

民俗博物館の収蔵問題

論説委員 増山 和樹

を300個前後のミニシタルカーイン化、市町村や民間への譲渡も検討した上で、引き取り手がなければ廃棄する。

県内の課題に向き合う姿勢は評価されるべきだが、欠けている視

廃棄避ける議論を

点がある。収集した責任と整理者の思い。同館が収集してきたのは大正から昭和初期の生活用具や農具などで、実際に使った世代の多くは鬼籍に入ったと思われる。廃棄寸前でも回収した民具もあ

た。だが、茶室一つでも県が責任を持って収集・保存してきた民俗資料であり、廃棄するのは県の責任が欠かれない。

その一方で、民間の協力も必要だ。県立高校跡地など、民間の活用も検討したい。

「民俗資料の収集・保存の奈良モデル」を決定した。具体的には収蔵品を300個前後のミニシタルカーイン化、市町村や民間への譲渡も検討した上で、引き取り手がなければ廃棄する。

県内の課題に向き合う姿勢は評価されるべきだが、欠けている視点がある。収集した責任と整理者の思い。同館が収集してきたのは大正から昭和初期の生活用具や農具などで、実際に使った世代の多くは鬼籍に入ったと思われる。廃棄寸前でも回収した民具もあ



デスクメモ

◇8日に「県文化創造ギヤザリング」が初めて開かれ、山下真知事と有識者が県立美術館の在り方について意見交換を始めました。意外だったのは知事が収蔵品の充実に意欲的な姿勢を示したこと。先月には県立民俗博物館の収蔵品について「廃棄」の言及をしたばかり。美術品と民具では思い入れが違うようです。

民博に関する発言は、県に民具を寄贈・寄託した人の思いをないがしろにするものと危惧します。今後、貴重な資料・美術品の収集に影響が出て、散逸につながる心配です。(穂)

R6.8.9 奈良新聞(朝刊)

R6.8.30 奈良新聞(朝刊)

12. 奈良県立民俗博物館の展示室一時休止について②

奈良県立民俗博物館の概要

所在地：大和郡山市矢田町545
(県立大和民俗公園内)

設立：昭和49年11月10日

規模：建築面積 4,642㎡
延床面積 6,354㎡

地下1階、地上2階

構造：鉄筋コンクリート造

外観



展示室



本館収蔵庫



奈良県立民俗博物館は、26.6haに及ぶ広大な大和民俗公園内にあり、奈良に暮らす人々が改良と工夫を重ねながら伝えてきた、大正から昭和初期の生活用具や農具、国重要有形民俗文化財の「吉野林業用具と林産加工用具」などを、わかりやすく展示

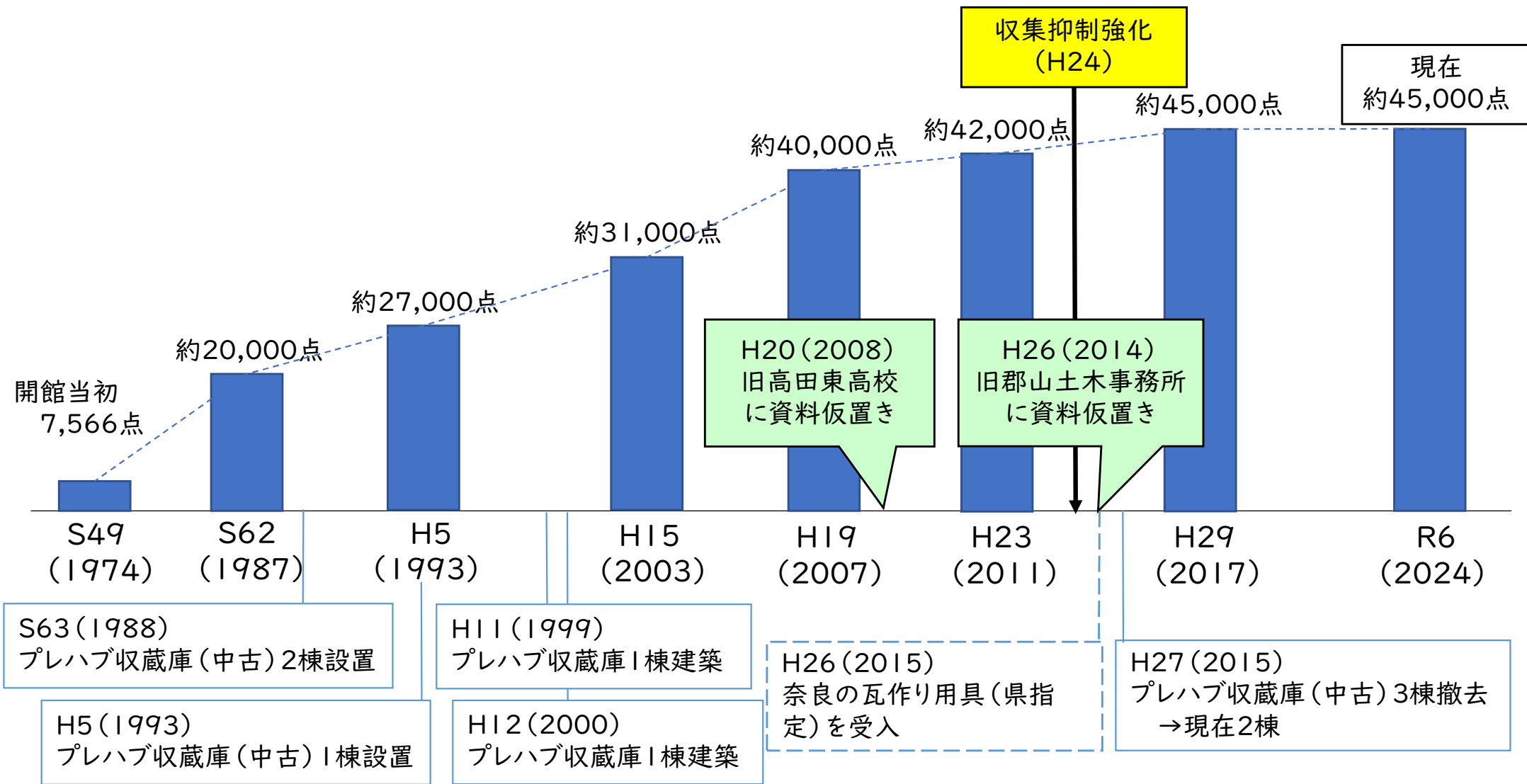
12. 奈良県立民俗博物館の展示室一時休止について③

収集の経緯①

- 昭和49年(1974年)の開館時の資料は7,566点
- 高度成長期における生活様式の急速な変化に伴い、様々な民具が消滅する危機感から、積極的に資料を収集
- 緊急避難的に中古プレハブを設置し、収蔵庫として活用
(昭和63年(1988年)2棟、平成5年(1993年)1棟)
- 平成11・12年(1999・2000年)に博物館敷地内にプレハブ収蔵庫を1棟ずつ建築
- 平成20年(2008年)に旧高田東高校、平成26年(2014年)に旧郡山土木事務所への資料仮置きを開始、それに伴い中古プレハブを平成27年(2015年)に撤去
- 平成24年(2012年)からは収集抑制を強化

12. 奈良県立民俗博物館の展示室一時休止について④

収集の経緯②



12. 奈良県立民俗博物館の展示室一時休止について⑤

収蔵箇所の状況

収蔵箇所	面積	点数
本館収蔵庫	720㎡	24,000点
敷地内プレハブ	333㎡	6,000点
旧郡山土木事務所	594㎡	12,000点
旧高田東高校	2,028㎡	3,000点
合計	3,675㎡	約45,000点

12. 奈良県立民俗博物館の展示室一時休止について⑥

全国の博物館の収蔵状況①

全国の博物館の約6割が
「ほぼ満杯もしくは入りきらない」状況

特に郷土系博物館は、総合博物館に次いで
その割合が高い。

12. 奈良県立民俗博物館の展示室一時休止について⑦

全国の博物館の収蔵状況②

	N=	3割未満	3割以上、 5割未満	5割以上、 7割未満	7割以上、 9割未満	9割以上 (ほぼ、満 杯の状態)	収蔵庫に入 りきれない 資料がある	無回答	
全体	2,314	7.0	2.5	7.0	19.1	33.9	23.3	7.1	
館種	総合	129	4.7	0.8	7.0	16.3	29.5	38.8	3.1
	郷土	248	5.6	2.4	6.0	14.1	29.8	36.3	5.6
	美術	497	2.8	2.4	8.0	22.9	40.4	19.1	4.2
	歴史	1,108	6.3	2.5	6.2	19.8	35.0	23.0	7.1
	自然史	101	15.8	4.0	13.9	16.8	16.8	23.8	8.9
	理工	102	23.5	2.9	6.9	17.6	21.6	12.7	14.7
	動物園	41	12.2	0.0	4.9	14.6	41.5	7.3	19.5
	水族館	44	18.2	4.5	6.8	18.2	31.8	6.8	13.6
	植物園	34	11.8	5.9	2.9	14.7	29.4	17.6	17.6
	動水植	10	20.0	0.0	10.0	0.0	40.0	0.0	30.0

【参照】 令和元年度 日本の博物館総合調査
(公益財団法人日本博物館協会)

12. 奈良県立民俗博物館の展示室一時休止について⑧

近畿の民俗博物館の収蔵状況

都道府県	館名	収蔵状況	資料点数	備考
滋賀県立	琵琶湖博物館 H8開館	非公表	民俗:約11,500点 その他:約715,300点(※) 面積:872㎡	※登録数。その他は、動物、植物、歴史、地学等 R2年度リニューアル
京都府立	丹後郷土資料館 S45開館	ほぼ満杯	民俗:約8,000点 その他:約110,000点 面積:200㎡	館外保管庫2、プレハブ4他にも保管 R8年度リニューアル予定
京都府立	山城郷土資料館 S57開館	ほぼ満杯	民俗:約5,000点 考古、歴史:約56,000点 面積:659㎡	
大阪市立	大阪歴史博物館 H13開館	ほぼ満杯	民俗:約7,400点 その他:約140,500点(※) 面積:2,126㎡	※その他は、歴史、芸能等
兵庫県立	歴史資料館 S58開館	ほぼ満杯	民俗:約9,700点 その他:約270,400 面積:1,178㎡	高校空き校舎にも保管 R5年度リニューアル
和歌山県立	紀伊風土記の丘 S46開園	ほぼ満杯	民俗:約7,000点 考古:約50,000点 面積:265㎡	プレハブにも保管 R10年度リニューアル予定

12. 奈良県立民俗博物館の展示室一時休止について⑨

今後の方向性

「博物館の収蔵スペース不足」という全国が先送りにしてきた共通の課題に、奈良県が全国に先駆けて果敢に取り組み、
「民俗資料の収集・保存」の奈良モデルを策定し、実行する。

「民俗資料の収集・保存」の奈良モデルの内容

1. 民俗資料のDX推進
2. 専門家の協力を得て収集・保存ルールを策定
3. 大学・博物館等やボランティアの協力を得て資料整理を促進
4. 多様な主体による資料保存・活用
5. 国への要望

今後の方向性

「民俗資料の収集・保存」奈良モデル

1. 民俗資料のDX推進

3D技術を積極的に導入し、デジタルアーカイブ化を促進

- 民俗資料の3Dデジタルスキャン
- 3Dデジタルアーカイブ化 (3D画像と出自情報、材質情報等とのリンク)
- 3Dデータを用いた調査、研究
- 3Dデジタルアーカイブや収蔵庫の3Dマップのインターネット公開
- 現物保存に替わる3Dデジタル保存の導入

12. 奈良県立民俗博物館の展示室一時休止について①①

今後の方向性

- 「民俗資料の収集・保存」奈良モデル**
2. 専門家の協力を得て収集・保存ルールを策定

(仮称)「民俗資料収集・保存方策検討委員会」を設置

構成

民俗学、博物館勤務経験者等の有識者で構成

設置目的

- ・民俗資料の収集基準の策定
- ・民俗資料の現物保存とデジタル保存の基準の策定
- ・民俗資料の除籍規定の策定
- ・民俗博物館の収集、保存、除籍の状況に関する審議

12. 奈良県立民俗博物館の展示室一時休止について⑫

今後の方向性

「民俗資料の収集・保存」奈良モデル

3. 大学・博物館等やボランティアの協力を得て資料整理を促進

①大学や博物館等との連携

・連携内容(想定)

今後の資料保存・活用の方法の協同研究(3Dデータや機器の共有化等)
文化財保存修復系の学生等による資料整理の補助の受入

②ボランティアの募集

・業務内容(想定)

データベースへの入力作業(民俗資料の写真撮影を含む。)
データベースと現物との照合作業

今後の方向性

「民俗資料の収集・保存」奈良モデル 4. 多様な主体による資料保存・活用

民俗博物館で保存しないと判断された民俗資料は、市町村や民間等に譲渡し、有効に活用

地域ぐるみで保存・活用

県内市町村で保存・展示

県内教育機関で保存・活用

民間で有効活用

全国のホテルや古民家レストランなどで民具を有効活用

今後の方向性

「民俗資料の収集・保存」奈良モデル 5. 国への要望

①国庫補助金（文化庁）

- ・重要有形民俗文化財以外の民俗文化財も対象とした、収蔵スペース不足を解消するために要する経費（収蔵庫の増改築に要する経費等）に対する国庫補助金の制度創出
- ・民俗文化財の調査に対する国庫補助金の予算確保
- ・博物館のDX推進に対する国庫補助金の制度拡充、予算確保

②地方債（総務省）

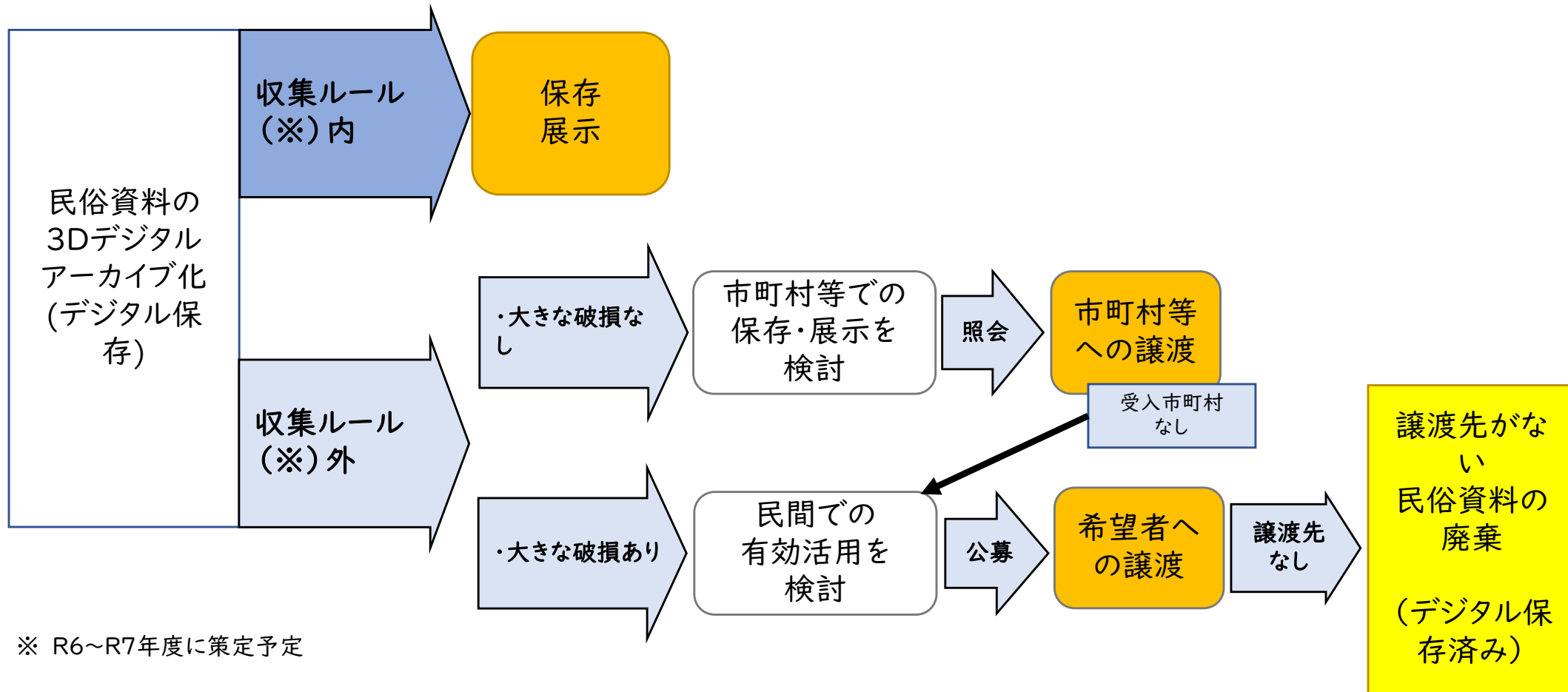
- ・収蔵庫の増改築等の経費に充当する地方債（地域活性化事業債）に係る交付税算入率（30%）について、収蔵資料の整理と併せて行う場合にあっては拡大（50%）

③全国共通の課題に対する助言と財政支援（文化庁）

- ・全国共通の課題である収蔵スペース不足への対応についての助言

12. 奈良県立民俗博物館の展示室一時休止について⑮

現有の民俗資料の整理のプロセス (イメージ)



12. 奈良県立民俗博物館の展示室一時休止について⑬

収蔵スペース不足を新築で解消する場合のコスト

敷地内プレハブ倉庫、旧高田東高校、旧郡山土木事務所に保管しているスペースを新たに確保する場合の想定費用

【建築費用】

約1,700㎡(延床面積:テニスコート6.5面分)×約227,000円/㎡(※1)=約3億9千万円

【設備費用】(※2)

資料保管のための空調設備=約1億3千万円

資料保管のための棚設置=約4千万円

資料移動のための人荷用エレベーター=約4千万円

その他、基礎工事、配電、給排水管等=約4千万円

【土地費用】

約1,500㎡×約100,000円(※3)/㎡=約1億5千万円

(建築費用+設備費用+土地費用)+税=**合計:約8億7千万円**

⇒ 県立高校の約56カ所のトイレがピッカピカに!!

※1 鉄骨造構造・倉庫建設の場合の想定単価

※2 国土交通省新営予算単価を参考

※3 大和郡山市内の地価公示価格を参考

県立高校トイレピッカピカ5か年計画(353カ所)

13. 令和5年度予算の予算執行査定について

知事就任後、直ちに取り組んだ令和5年度当初予算の執行査定により、**大型公共事業等を見直しました。**

事業の全部又は一部の**執行を中止**するもの

	プロジェクト数	R5年度予算額	将来の総事業費
執行の一旦停止を5月8日付けで指示していたもの	20プロジェクトのうち 15 プロジェクト 〔全部執行中止 3プロジェクト 一部執行中止 12プロジェクト〕	▲68.1 億円	約 ▲4,730 億円 <ul style="list-style-type: none"> ・朱雀大路東側・平城宮跡南側の整備 ▲70億円 ・大規模広域防災拠点の整備 ▲650億円 ・国道168号のバイパス(五條市生子町～釜窪町)の整備 ▲260億円 ・大和西大寺駅高架化・近鉄奈良線移設 ▲800億円 ・リニア中央新幹線・関西国際空港接続線 ▲1,900億円 ・スポーツ拠点の整備(橿原運動公園・橿原公苑) ▲430億円 ・まほろば健康パーク ▲40億円 ・大和平野中央田園都市構想の拠点施設整備 ▲580億円 〔川西町下永地区(テニスコート・食と農の施設等) ▲120億円 三宅町石見地区(工科大学・スタートアップ支援施設等) ▲320億円 田原本町阪手北・西井上地区(球技専用スタジアム等) ▲140億円〕
一旦停止をするかどうか検討することと していたもの	5プロジェクトのうち 3 プロジェクト 〔全部執行中止 1プロジェクト 一部執行中止 2プロジェクト〕	▲0.3 億円	—
執行方法について協議を要することと していたもの	2プロジェクトのうち 1 プロジェクト 〔全部執行中止 1プロジェクト〕	— 億円 ※「第1」と重複のため	—
上記以外の事業について、費用対効果や代替手段等の観点から検証したもの	10 事業	▲5.1 億円	<ul style="list-style-type: none"> ・BS放送による奈良県魅力発信事業 ・郡山総合庁舎浄化槽撤去工事 ・果樹・薬草研究センター本館空調設備等改修 <p style="text-align: right;">など</p>

14. 知事の仕事

最も重要な知事の職責は、正しい判断を下すこと

そのために……



- ・ 自らの判断基準を持ち、そこからぶれない。
- ・ 古今東西の歴史に学ぶ。
- ・ 国・他府県・市町村の動向、制度、法令等について最新の情報を収集する。

- ・ 職員や議員と十分な協議をし、合意形成する。
- ・ 世論、マスコミ、議会の反応を正しく予測する。

山下県政「評価」47%

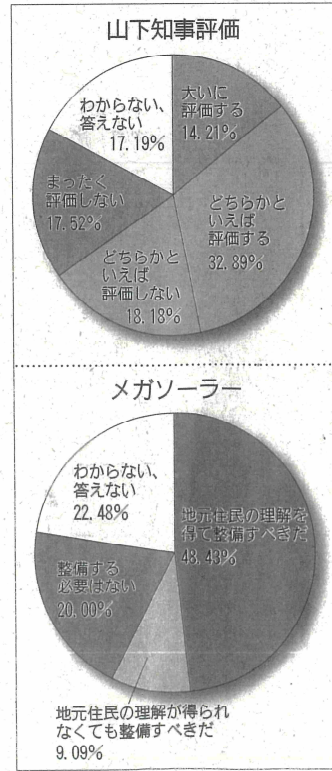
奈良新聞社電話世論調査

奈良新聞社は20、21日の両日、J-V通信社(東京)と共同で、県民を対象に無作為抽出の電話世論調査を実施し、5月3日で就任1年を迎える山下知事の評価について聞いた。山下知事を「評価する」と回答したのは47・1%で、「評価しない」の35・7%を11・4割上回った。一方、前知事が進めていた五條市の大規模広域防災拠点の整備を止め、メガソーラーを整備する新たな計画については「地元住民の理解を得て整備すべき」が48・43%と割合近く上った。【3面に関連記事】

全県を対象に調査し、605人が回答した。回答者の年代は70歳代が最も多く35・87%。次いで60歳代が20・66%、80歳代が16・53%、40歳代が12・73%と続いた。性別は男性47・27%、女性52・73%。調査では山下知事の評価▽メガソーラーの評価▽大規模広域防災拠点整備計画への評価▽大型事業見直しへの評価▽高校無償化の評価―などについて質問した。

山下知事の県政運営については、「大いに評価する」とどちらかといえば評価するを合わせた47・1%が評価すると回答。一方、「どちらかといえば評価しない」「まったく評価しない」を合わせた35・7%は評価しないと答え

防災拠点「滑走路なし整備」最多



高校無償化、評価多く

「必要はない」との回答も20%あった。従前の大規模広域防災拠点を整備する計画については「滑走路は必要ないが、防災直し、他の施設の整備も含めて検討すべき」は18・35%、「メガソーラーが整備されれば防災拠点は必要ない」は5・62%だった。

時に役立てる新たな計画については「地元住民の理解を得て整備すべき」が48・43%と「地元住民の理解が得られなくても整備すべき」の9・09%を大きく上回った。「整備

拠点は整備すべき」が41・49%と最多。次いで「もともと

前知事が進めていた各種の大型事業を山下知事が見直ししたについては「大いに評価する」「どちらかといえば評価する」を合わせた51・41%。「どちらかといえば評価しない」「まったく評価しない」は29・09%だった。

山下知事の肝いり事業、私立も含めた高校授業料の無償化については「大いに評価する」「どちらかといえば評価する」が合わせて62・81%に上り、評価する声が多かった。支持政党は支持政党なしが36・53%と最も多く、次いで「自民党」22・31%、「日本維新の会」16・20%、「立憲民主党」10・58%、「共産党」3・97%、「公明党」3・47%などだった。

限りない可能性を最大限に引き出すために

県政に取り組む私の基本的な考えは、奈良県の持つ限りない可能性を最大限に引き出し、県民の皆さまが暮らしの豊かさを実感できる奈良県にしていくことです。

そのため、県民にとって当たり前前感覚を大切に、冷静に、そして変えるべきは断固として改革していくことが、私の責務であると考えています。



ご清聴ありがとうございました。